

# Public Voices 声のらん

皆さんの「声」にお答えします。

《声のらん》では、「市長への手紙・ポスト」などに寄せられた声とその答えの中から、市民の皆さんの参考になる問答をご紹介します。(内容確認のため、連絡先と名前をご記入ください。)  
【〒066-8686 / 東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課宛】

**道ばたで衰弱した鳥を見つけたのですが、どうしたらいいですか。**  
[50歳代 / 男性]

**声** 散歩をしていると、道ばたで衰弱した鳥を見つけたのですが、どうしたらいいですか。ハクチヨウなどの渡り鳥もたくさんいるので、鳥インフルエンザなどが心配です。

**答** 衰弱した野鳥や死がいを見つけたときは、素手で触らずに、環境課にご連絡ください。万が一、死がいやフンに触れたときは手洗い・うがいなどをしましょう。

市民環境部 環境課 自然環境係  
電話 (24) 05997 FAX (22) 8851

市内では鳥インフルエンザ感染による野鳥の死亡例は確認されていません。鳥インフルエンザウイルスは、通常、人に感染することはないと考えられています。衰弱していたり、死因がわからない野鳥を見つけたときは、環境課に連絡してください。

千歳川などの水辺にはハクチヨウをはじめとする水鳥が渡ってきています。「かわいい」、「エサがない」などの安易な理由から、野生動物にエサやりをすると、自分でエサをとることができなくなる、渡り鳥が渡りをやめるなど生態系に影響を及ぼすおそれがあります。

また、野鳥以外にも自然豊かな公園には、多くの野生動物が生息しています。人と野生動物の距離が近くなることで、野鳥と同様に、自分でエサをとらなくなったり、野生動物が持つ病原体により、さまざまな感染症にかかるおそれがありますので、やむを得ず野生動物に接するときは、次の点に注意してください。

- 素手で触れない
- 触れたときは手洗い、うがいをする
- フンを踏んだときは靴底を洗う

人と野生動物がよりよい関係を築き、生態系を守り続けるため、エサやりや故意に触れたりせず、自然のままそっと見守りましょう。



## ちとせ 地 世 からの 科技大

第10回  
全12回

地域から  
世界に

### 公立千歳科学技術大学 ライトアート工房の活動

公立千歳科学技術大学ライトアート工房は、プロジェクトエクスプレッションなどの光を使ったアート制作をする学生団体です。私が本学に着任した6年前は、チームラボやライゾマティクスに代表されるテクノロジーを駆使したアーティストの活動が注目され始めた時期でした。「光に関わるテクノロジーを応用したアート作品を通じて大学の宣伝ができないか?」という思いがきっかけとなり、賛同してくれた学生たちとともにライトアート工房の活動は始まりました。参加する学生たちには、作品を構成する「光」の裏側にあるものをしっかりと見つめて欲しいと思います。それは、光の持つ性質や光を扱うためのテクノロジーの仕組みへの理解だったりします。

最近では、「STEAM」という言葉を聞くようになりました。これは「STEM」に芸術(Art)を加えた概念で、科学や技術と人間とをつなぐことができる人材の育成に貢献するものと期待されています。

理工系教育にアートをプラスすることで、物質的だけでなく精神的に豊かな社会の実現に貢献していけたらと思っています。市民の皆さまのご支援をお願いいたします。

自然科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、数学 (Mathematics)



ライトアート工房の作品



電子工学科  
青木 広宙 准教授  
AOKI HIROOKI

シリーズ全般  
公立大学法人  
公立千歳科学技術大学  
電話 (27) 6001  
ファクス (27) 6007